



碧南ロータリークラブ週報

第2540回例会 平成23年3月23日(水)

● 会長 奥田 雪雄 ● 幹事 新美 宗和 ● 会場監督 (SAA) 伊藤 正幸

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
 ■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
 E-mail: info@hekinan-rc.jp



地域を育み、大陸をつなぐ

■ 会報委員 新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原 優

● 齊 唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

● 本日のメニュー

洋風弁当 大正館

● 本日のお客様

(財)オイスカ中部日本研修センター
 稲村渉一氏、モハメド・ラヒム・ウラ氏

新 入 会 員

新入会員 鈴木きよみ君



鈴木きよみ君

会 長 挨拶

東北関東大震災、未曾有の天地異変に見舞われた日本。

被災された皆様には心よりお見舞い申し上げ、亡くなられた方々には心よりお悔み申し上げます。

今、まさにわずかではありますが、復興に向けて動き出そうとしております。そんな中、事態が今までになく困難きわまることから、状況があまりにも悪すぎるから負けてしまうと思うことのないよう願っております。

心が恐れを抱き、怖気づいていた時には、自ら自然と破滅や敗北の道を選ぶようになっていきます。

どうぞ心の中に、自分の心の中に光を見つけ、希望という一筋の光を見つけられ、今を大事にし、全力で向かっていってほしいと思います。

それぞれの思いは立場によって異なりますが、控えめの生活をするのが被災に会わずにすんだもののできる最低限の努力と考えるのか、いつも通りの生活をしていることをみせることが復興の希望につながるのかわかりませんが、私なら後者を選びます。

生きることの幸せを肝に銘じて、仕事に励み、復興への手助けをしていきたいとおもいます。

先週、皆様にお願ひしました義援金が14万2千円集まりました。ありがとうございました。早速地区の方に送りました。

全国旅館連盟から当碧南市の衣浦グランドホテルに、被災者の受け入れが可能かどうかの打診があり、澤社長は受け入れたいとの意向をおもちのようであることを付け加えておきます。



奥田雪雄会長

生きている
健康である
手が動く 足で歩ける
目がみえる 耳が聞こえる
この当たり前のことの中に
ただごとでないしあわせがある

日本国中が、全世界があなたを応援しています。絆を大事にとお伝えして本日のお話を終わらせていただきます。

幹 事 報 告

・例会変更等はお手元の資料のとおりです。

委 員 会 報 告

〈出席奨励委員会〉

総会員数73名(内出席免除者16名の内出席者8名)出席者55名	
出席対象者 55/63名	出 席 率 87.30%
欠席者18名(病欠者2名)	前々回修正出席率 96.97%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 加藤 良邦君 3月21日春彼岸法要、天候にも恵まれお陰様にて無事終了致しました。有難うございました。
- 小笠原良治君 ご無沙汰しています。とりあえず想定内で経過しています。元気にはしていますが…。もう少しだと思います。近日中には出席して、皆様の元気な顔を拝顔したいと思っています。 追記：長田昌昇様、先日はごちそうさまでした。
- 長田 豊治君 棚尾秋葉社竣工奉祝祭と稚児行列が盛大に開催されました。皆様のご協力に感謝申し上げます。
- 竹中 誠君 ①新入会員鈴木きよみさんの紹介をさせていただきます。②本日の卓話講師を紹介させていただきます。
- 山中 寛紀君 昨日、へきなん都市デザイン文化賞授賞式で平岩商工会議所会頭様より賞を賜り、光栄に存じます。大変身の引き締まる思いでございますが、今回頂戴した賞の金品分につきましては、先般の東北地方大震災に対して市役所で受付ております義援金にさせていただきました。
- 大竹 密貴君 木村徳雄さん、先日はどうもありがとうございました。
- 鈴木きよみ君 本日より入会させていただきました。ご指導の程よろしくお願い致します。

卓 話

「オイスカの活動」

(財)オイスカ中部日本研修センター 稲村渉一氏

モハマド・ラヒム・ウラ氏

○稲村渉一氏

私はオイスカでは碧南・高浜を担当してます。オイスカは1961年



新美宗和幹事



設立、N G O団体では日本で一番古い団体です。国際青年養成講座の目的は学生から社会人への意識の転換を柱に、新入社員の方々が新しい環境の中で、社会人としての自覚を持たせ、自分の役割と責任を明確にし、新入社員として必要な知識・マナーを習得します。また、農業体験や研修生との交流の中で自らを振り返ると共に、国際理解や相互協力などの感覚を養います。

○モハマド・ラヒム・ウラ氏

私はバングラデッシュ出身で今日初めて碧南に来ました。母国語と日本語、英語が話せます。オイスカには30年ほどいます。中部日本研修センターでは農業を担当していて来年4月に帰国する予定です。オイスカのスローガンは「FOOD FIRST」です。食べ物が一番大事、そのためには我々は農業をしなくてはなりません。



1962年、日本からインドに農業を教えに行った方がいます。インド（政府）は大変喜び、その後オイスカの活動が活発になりました。それからオイスカ研修が12カ国で行われるようになりました。静岡のオイスカアカデミー学校では日本だけでなく外国からもたくさん研修生が来ています。西日本研修センター、中部日本研修センターでは毎日、国旗掲揚をしてから研修を始めています。

私の出身のBangladesh（バングラデッシュ）について少し話します。

首都はダッカでパキスタンから独立してから40年経ちました。農業国で面積は147570s・km（北海道の約2倍）、人口は150ミリオン、温度は最高が38度、最低が20度、言語はバングラ語で人口の89%がイスラム教信者です。

大きく分けると80%は貧しい層、17.5%は中流層、2.5%は富裕層で、この国はこの富裕層の人達だけで回っているようなものです。

毎年オイスカの人達が植林してくれているのでどんどん環境は良くなっています。

皆さんには現地に行って一本でも植えて下さい。そして古い農業機械などがあればぜひ下さい。よろしくおねがいします。

次回例会案内 平成23年4月6日（水）
卓話「2011.3.11 東北地方太平洋沖地震について（速報版）」
一般社団法人DCM推進協議会 理事 井出 修氏